

貸借対照表

2026年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	40,529,016	40,948,549	-419,533
未収金	372,028	396,208	-24,180
前払費用	0	576,505	-576,505
貯蔵品	13,920	13,840	80
流動資産合計	40,914,964	41,935,102	-1,020,138
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金	374,891	937,247	-562,356
定期預金	500,000,000	200,000,000	300,000,000
投資有価証券	1,499,625,109	1,799,062,753	-299,437,644
基本財産合計	2,000,000,000	2,000,000,000	0
(2) 特定資産			
建物	905,583,777	924,257,991	-18,674,214
助成基金	120,000,000	130,000,000	-10,000,000
運営基金	115,000,000	115,000,000	0
特定資産合計	1,140,583,777	1,169,257,991	-28,674,214
(3) その他固定資産			
機械装置	804,001	804,001	0
什器備品	364,993	364,993	0
ソフトウェア	2	2	0
電話加入権	601,328	601,328	0
保証金	20,000	20,000	0
その他固定資産合計	1,790,324	1,790,324	0
固定資産合計	3,142,374,101	3,171,048,315	-28,674,214
資産合計	3,183,289,065	3,212,983,417	-29,694,352
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	250,000	0	250,000
預り金	197,280	200,251	-2,971
流動負債合計	447,280	200,251	247,029
負債合計	447,280	200,251	247,029
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	3,182,841,785	3,212,783,166	-29,941,381
正味財産合計	3,182,841,785	3,212,783,166	-29,941,381
負債及び正味財産合計	3,183,289,065	3,212,983,417	-29,694,352

貸借対照表内訳表

2026年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	公益目的事業	収益事業等	法人会計	合 計
I 資産の部				
1. 流動資産				
現 金 預 金	13,782,380	21,535,301	5,211,335	40,529,016
未 収 金	140,254	86,310	145,464	372,028
前 払 費 用	0	0	0	0
貯 蔵 品	8,204	3,444	2,272	13,920
流動資産合計	13,930,838	21,625,055	5,359,071	40,914,964
2. 固定資産				
(1) 基本財産				
普 通 預 金	0	0	374,891	374,891
定 期 預 金	200,000,000	0	300,000,000	500,000,000
投 資 有 価 証 券	1,000,000,000	0	499,625,109	1,499,625,109
基本財産合計	1,200,000,000	0	800,000,000	2,000,000,000
(2) 特定資産				
建 物	562,555,782	230,516,827	112,511,168	905,583,777
助 成 基 金	120,000,000	0	0	120,000,000
運 営 基 金	0	0	115,000,000	115,000,000
特定資産合計	682,555,782	230,516,827	227,511,168	1,140,583,777
(3) その他固定資産				
機 械 装 置	321,601	401,992	80,408	804,001
什 器 備 品	182,485	146,003	36,505	364,993
ソ フ ト ウ ェ ア	2	0	0	2
電 話 加 入 権	300,664	240,532	60,132	601,328
保 証 金	0	0	20,000	20,000
その他固定資産合計	804,752	788,527	197,045	1,790,324
固定資産合計	1,883,360,534	231,305,354	1,027,708,213	3,142,374,101
資産合計	1,897,291,372	252,930,409	1,033,067,284	3,183,289,065
II 負債の部				
1. 流動負債				
未 払 金	0	0	250,000	250,000
預 り 金	71,635	38,882	86,763	197,280
流動負債合計	71,635	38,882	336,763	447,280
負債合計	71,635	38,882	336,763	447,280
III 正味財産の部				
1. 指定正味財産				
指定正味財産合計	0	0	0	0
2. 一般正味財産	1,897,219,737	252,891,527	1,032,730,521	3,182,841,785
正味財産合計	1,897,219,737	252,891,527	1,032,730,521	3,182,841,785
負債及び正味財産合計	1,897,291,372	252,930,409	1,033,067,284	3,183,289,065

正味財産増減計算書

2025年4月1日から2026年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基 本 財 産 運 用 益	16,881,648	18,672,262	-1,790,614
基 本 財 産 受 取 利 息	16,881,648	18,672,262	-1,790,614
特 定 資 産 運 用 益	1,039,785	806,234	233,551
助 成 基 金 受 取 利 息	752,287	727,125	25,162
運 営 基 金 受 取 利 息	287,498	79,109	208,389
事 業 収 入 益	23,930,530	25,258,933	-1,328,403
貸 事 務 所 ・ 住 戸 受 取 賃 貸 料	4,801,929	6,432,095	-1,630,166
駐 車 場 受 取 賃 貸 料	16,140,400	15,817,100	323,300
そ の 他 施 設 受 取 賃 貸 料	2,988,201	3,009,738	-21,537
受 取 補 助 金	2,743,028	2,647,648	95,380
受 取 地 方 公 共 団 体 補 助 金	2,743,028	2,647,648	95,380
受 取 返 納 金	770,900	3,228,483	-2,457,583
受 取 大 学 支 援 事 業 返 納 金	770,900	3,228,483	-2,457,583
雑 収 益	269,469	2,197,235	-1,927,766
雑 収 益	269,469	2,197,235	-1,927,766
経常収益計	45,635,360	52,810,795	-7,175,435
(2) 経常費用			
事 業 費	64,256,092	61,728,644	2,527,448
教 育 研 究 活 動 支 援 金	2,100,000	2,100,000	0
国 際 交 流 活 動 支 援 金	5,360,000	5,360,000	0
学 術 研 究 成 果 の 普 及 支 援 金	0	0	0
ア ワ ー ド 支 援 金	1,340,000	1,140,000	200,000
新 産 業 創 出 支 援 金	1,200,000	1,200,000	0
給 料 手 当	6,321,561	6,982,177	-660,616
福 利 厚 生 費	646,848	660,904	-14,056
会 議 費	0	0	0
旅 費 交 通 費	51,231	103,375	-52,144
消 耗 品 費	312,040	493,697	-181,657
修 繕 費	2,078,808	2,570,606	-491,798
通 信 運 搬 費	1,001,160	726,968	274,192
印 刷 製 本 費	435,644	779,900	-344,256
減 価 償 却 費	16,395,213	16,395,213	0
賃 借 料	1,124,138	1,091,958	32,180
光 熱 水 料 費	7,561,702	8,192,358	-630,656
諸 謝 金	698,700	748,000	-49,300
保 険 料	1,212,080	1,109,440	102,640
租 税 公 課	332,086	332,451	-365
委 託 費	15,747,023	11,405,710	4,341,313
雑 費	337,858	335,887	1,971
管 理 費	11,320,649	11,168,170	152,479
役 員 報 酬	550,000	600,000	-50,000
給 料 手 当	4,059,013	4,483,123	-424,110
福 利 厚 生 費	415,321	424,349	-9,028
会 議 費	298	1,012	-714
旅 費 交 通 費	5,950	1,500	4,450
消 耗 品 費	26,032	43,985	-17,953
修 繕 費	296,972	81,857	215,115
通 信 運 搬 費	178,424	134,239	44,185
減 価 償 却 費	2,279,001	2,279,001	0
賃 借 料	78,796	69,780	9,016
光 熱 水 料 費	1,080,227	1,170,320	-90,093
保 険 料	144,269	129,422	14,847
租 税 公 課	213,214	213,449	-235
委 託 費	1,728,528	1,255,779	472,749
雑 費	264,604	280,354	-15,750
経常費用計	75,576,741	72,896,814	2,679,927
評価損益等調整前当期経常増減額	-29,941,381	-20,086,019	-9,855,362
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	-29,941,381	-20,086,019	-9,855,362

科 目	当年度	前年度	増 減
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-29,941,381	-20,086,019	-9,855,362
一般正味財産期首残高	3,212,783,166	3,232,869,185	-20,086,019
一般正味財産期末残高	3,182,841,785	3,212,783,166	-29,941,381
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	3,182,841,785	3,212,783,166	-29,941,381

正味財産増減計算書内訳表

2025年4月1日から2026年3月31日まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業	収益事業等	法人会計	合 計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基 本 財 産 運 用 益	10,128,993	0	6,752,655	16,881,648
基 本 財 産 受 取 利 息	10,128,993	0	6,752,655	16,881,648
特 定 資 産 運 用 益	752,287	0	287,498	1,039,785
助 成 基 金 受 取 利 息	752,287	0	0	752,287
運 営 基 金 受 取 利 息	0	0	287,498	287,498
事 業 収 入 益	0	23,930,530	0	23,930,530
貸 事 務 所 ・ 住 戸 受 取 賃 貸 料	0	4,801,929	0	4,801,929
駐 車 場 受 取 賃 貸 料	0	16,140,400	0	16,140,400
そ の 他 施 設 受 取 賃 貸 料	0	2,988,201	0	2,988,201
受 取 補 助 金	1,034,121	636,382	1,072,525	2,743,028
受 取 地 方 公 共 団 体 補 助 金	1,034,121	636,382	1,072,525	2,743,028
受 取 返 納 金	770,900	0	0	770,900
受 取 大 学 支 援 事 業 返 納 金	770,900	0	0	770,900
雑 収 益	139,847	68,585	61,037	269,469
雑 収 益	139,847	68,585	61,037	269,469
経常収益計	12,826,148	24,635,497	8,173,715	45,635,360
(2) 経常費用				
事 業 費	45,055,426	19,200,666	0	64,256,092
教 育 研 究 活 動 支 援 金	2,100,000	0	0	2,100,000
国 際 交 流 活 動 支 援 金	5,360,000	0	0	5,360,000
ア ワ ー ド 支 援 金	1,340,000	0	0	1,340,000
新 産 業 創 出 支 援 金	1,200,000	0	0	1,200,000
給 料 手 当	3,913,368	2,408,193	0	6,321,561
福 利 厚 生 費	400,432	246,416	0	646,848
会 議 費	0	0	0	0
旅 費 交 通 費	51,231	0	0	51,231
消 耗 品 費	240,632	71,408	0	312,040
修 繕 費	1,484,864	593,944	0	2,078,808
通 信 運 搬 費	715,129	286,031	0	1,001,160
印 刷 製 本 費	0	435,644	0	435,644
減 価 償 却 費	11,395,010	5,000,203	0	16,395,213
賃 借 料	826,624	297,514	0	1,124,138
光 熱 水 料 費	5,401,233	2,160,469	0	7,561,702
諸 謝 金	698,700	0	0	698,700
保 険 料	724,884	487,196	0	1,212,080
租 税 公 課	205,577	126,509	0	332,086
委 託 費	8,703,408	7,043,615	0	15,747,023
雑 費	294,334	43,524	0	337,858
管 理 費	0	0	11,320,649	11,320,649
役 員 報 酬	0	0	550,000	550,000
給 料 手 当	0	0	4,059,013	4,059,013
福 利 厚 生 費	0	0	415,321	415,321
会 議 費	0	0	298	298
旅 費 交 通 費	0	0	5,950	5,950
消 耗 品 費	0	0	26,032	26,032
修 繕 費	0	0	296,972	296,972
通 信 運 搬 費	0	0	178,424	178,424
減 価 償 却 費	0	0	2,279,001	2,279,001
賃 借 料	0	0	78,796	78,796
光 熱 水 料 費	0	0	1,080,227	1,080,227
保 険 料	0	0	144,269	144,269
租 税 公 課	0	0	213,214	213,214
委 託 費	0	0	1,728,528	1,728,528
雑 費	0	0	264,604	264,604
経常費用計	45,055,426	19,200,666	11,320,649	75,576,741
評価損益等調整前当期経常増減額	-32,229,278	5,434,831	-3,146,934	-29,941,381
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	-32,229,278	5,434,831	-3,146,934	-29,941,381

科 目	公益目的事業	収益事業等	法人会計	合 計
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
他会計振替額	12,000,000	-12,000,000	0	0
当期一般正味財産増減額	-20,229,278	-6,565,169	-3,146,934	-29,941,381
一般正味財産期首残高	1,917,449,015	259,456,696	1,035,877,455	3,212,783,166
一般正味財産期末残高	1,897,219,737	252,891,527	1,032,730,521	3,182,841,785
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	1,897,219,737	252,891,527	1,032,730,521	3,182,841,785

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券（次の2銘柄を除く）・・・原価法によっている。

満期保有目的の債券（次の2銘柄）・・・・・・償却原価法によっている。

・第9回 BPCE 円貨社債（劣後・期限前償還）（9年3ヵ月）

・HSBCホールディングス 第3回円貨社債（10年）

(2) 固定資産の減価償却の方法

建物、機械装置、什器備品及びソフトウェア・・・・・・定額法によっている。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

（単位：円）

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
普通預金	937,247	0	562,356	374,891
定期預金	200,000,000	300,000,000	0	500,000,000
投資有価証券	1,799,062,753	562,356	300,000,000	1,499,625,109
小計	2,000,000,000	300,562,356	300,562,356	2,000,000,000
特定資産				
建物	924,257,991	0	18,674,214	905,583,777
助成基金	130,000,000	479,875	10,479,875	120,000,000
運営基金	115,000,000	0	0	115,000,000
小計	1,169,257,991	479,875	29,154,089	1,140,583,777
合計	3,169,257,991	301,042,231	329,716,445	3,140,583,777

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
普通預金	374,891	—	(374,891)	—
定期預金	500,000,000	—	(500,000,000)	—
投資有価証券	1,499,625,109	—	(1,499,625,109)	—
小計	2,000,000,000	—	(2,000,000,000)	—
特定資産				
建物	905,583,777	—	(905,583,777)	—
助成基金	120,000,000	—	(120,000,000)	—
運営基金	115,000,000	—	(115,000,000)	—
小計	1,140,583,777	—	(1,140,583,777)	—
合計	3,140,583,777	—	(3,140,583,777)	—

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	取得価額及び 資産計上額	減価償却累計額	当期末残高
(建物)	*当初(3,266,856,170)	(2,072,980,372)	**2008年度末(1,193,875,798)
建物	1,217,879,998	312,296,221	905,583,777
機械装置	42,797,942	41,993,941	804,001
什器備品	9,097,384	8,732,391	364,993
ソフトウェア	6,473,250	6,473,248	2
合計	1,276,248,574	369,495,801	906,752,773

* 1993年(平成5年)竣工時

** 2008年度(平成20年度)末

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
三井住友フィナンシャルグループ 第10回劣後債 (10年)	100,000,000	99,870,000	△ 130,000
三菱UFJフィナンシャル・グループ 第11回劣後債 (10年)	100,000,000	99,713,000	△ 287,000
パナソニック 第17回社債 (10年)	100,000,000	99,631,700	△ 368,300
三井住友トラスト・ホールディングス 第4回劣後債 (10年)	100,000,000	99,320,000	△ 680,000
関西電力 第511回社債 (10年)	100,000,000	98,372,100	△ 1,627,900
モルガンスタンレー 円建外債 (10年)	100,000,000	96,798,000	△ 3,202,000
モルガンスタンレー円建外債2028.9 (9年11ヵ月)	100,000,000	96,553,200	△ 3,446,800
野村ヨーロッパファイナンス クレジットリンク債 (参照組織：パークシャーハサウエイ) (10年)	100,000,000	95,190,000	△ 4,810,000
東京電力パワーグリッド 第31回社債 (10年)	100,000,000	95,757,000	△ 4,243,000
野村グローバルファイナンス クレジットリンク債 (参照組織：ウェルズファーゴ) (9年11ヵ月)	100,000,000	92,930,000	△ 7,070,000
パークレイズ銀行クレジットリンク債 (参照組織：サウジアラビア) (9年9ヵ月)	100,000,000	91,750,000	△ 8,250,000
ゴールドマンサックスFCIクレジットリンク債 (参照組織：ブルデンシャルファイナンシャル) (9年10ヵ月)	100,000,000	88,480,000	△ 11,520,000
第9回BPCE円貨社債 (劣後・期限前償還) (9年3ヵ月)	99,625,109	99,211,000	△ 414,109
エスジーイシュアークレジットリンク債 (参照組織：野村ホールディングス) (9年10ヵ月)	100,000,000	89,523,000	△ 10,477,000
エスジーイシュアークレジットリンク債 (参照組織：フォルクスワーゲンAG) (9年10ヵ月)	100,000,000	90,730,000	△ 9,270,000
以上基本財産	1,499,625,109	1,433,829,000	△ 65,796,109
HSBCホールディングス 第3回円貨社債 (10年)	100,199,948	99,740,000	△ 459,948
以上特定資産	100,199,948	99,740,000	△ 459,948

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
地方公共団体補助金	奈良県	0	2,743,028	2,743,028	0	—

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産については、財務諸表の注記に記載しているため、附属明細書での記載を省略している。

2. 引当金の明細

該当なし

事業報告

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

公益財団法人 奈良先端科学技術大学院大学支援財団は、国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学が持つ斬新かつ優れた特性および機能が最大限に発揮されるよう、事業計画にもとづき、各種支援事業・地域交流事業に取り組みました。

I 公益目的事業の実施状況

1. 大学院大学支援事業

学識経験者で構成する支援事業選考委員会において、令和7年度の大学院大学に対する支援事業の内容を以下のとおり決定し、8,800千円(教育研究活動2,100千円、国際交流活動5,360千円、アワード1,340千円)の助成金を交付しました。

(1) 教育研究活動に対する助成

博士後期課程の学生の研究活動への助成を行いました。

国際・国内学会における研究成果の発表をはじめ、論文誌への投稿や特許申請をめざすものがあるなど、研究成果の創出拡大、若手研究者の育成に貢献しています。

① 研究テーマ助成

大学院大学から29件の申請があり、学識経験者3名で構成する選考委員会による選考を経て、3件1,500千円を助成しました。

氏名	所属等	研究テーマ
松田 明大	先端科学技術研究科 ユビキタスコンピューティングシステム研究室 博士後期課程2年	糖尿病予防を目的とした非侵襲での血糖値予測に基づく行動変容システムの開発
吉岡 求	先端科学技術研究科 微生物インタラクション研究室 博士後期課程1年	奈良漬から単離された乳酸菌が有する好エタノール性のメカニズムの解明
ANDRIANALY Tojo Fenosoa	先端科学技術研究科 ナノ高分子材料研究室 博士後期課程2年	Exploration on synthesis of unique topologies bearing polymer via dynamic bond formation of phenylboronic acid and diol

② 新任教授スタートアップ助成

大学院大学からの申請がありませんでした。

③ 社会人ドクター修学支援

企業に所属している社会人の修学を促進するため、社会人学生のうち、入学料と授業料を自己負担して博士後期課程に入学する学生に対する支援を行いました。3名600千円の支援を予定していましたが、該当者が少なく1名の支援(200千円)になりました。

(2) 国際交流活動に対する助成

学生の国際会議への参加、論文発表等の海外派遣、優れた外国人留学生等に対し助成しました。研究の最前線に触れる機会、研究すべき方向性や国際的な視点を認識する場等を、助成対象者に提供することができました。

① 海外派遣支援

海外の国際会議等において、研究成果を発表する博士後期課程学生に対し支援しました。17件2,203千円の支援を予定していましたが、派遣中止が1件あり、16件の支援(1,985,159円)になりました。

② 外国人留学生支援

教育研究の国際化を推進するため、博士後期課程に入学する外国人留学生の中から大学院大学が選考した留学生に対し、渡日旅費と入学料を支援しました。6名2,652千円の支援を予定していましたが、学内進学者1名を除く5名に対する支援(1,838,270円)になりました。

③ 大学間交流活動支援

タイ・カセサート大学におけるソフトウェア分析に関する研究開発など3件の活動を行うための渡航費用等505千円を支援しました。

(3) 学術研究成果の普及に対する助成

大学院大学からの申請がありませんでした。

(4) アワード制度に対する支援

① N A I S T 最優秀学生賞

学習や研究に対する意欲を高めるため、令和8年3月24日に開催された学位記授与式において、優秀な成績を修めた博士前期課程と博士後期課程の修了生14名を理事長名で表彰し、賞金(総額840千円)を授与しました。

② 教員表彰

教育研究活動で優れた業績を挙げた教員に対する表彰に際し、4名に賞金(総額500千円)を贈呈しました。

情報科学領域「ベストティーチング賞」	1名
バイオサイエンス領域「バイオ領域賞」	2名
物質創成科学領域「NAIST 学術賞」	1名

2. 先端科学技術の普及啓発事業

大学院大学が理念の一つとして「社会の発展や文化の創造に向けた学外との密接な連携・協力の推進」を掲げ、積極的に取り組んでいる、いわゆる産学官連携推進の活動のうち、大学院大学支援事業とは別枠で次の事業に支援を行いました。

(1) N A I S T 産学連携フォーラムの開催

産学官連携活動を推進し社会の発展に寄与するため、大学院大学の先端的で独創的な研究成果を紹介するとともに、大学院大学の研究者と産業界の研究者・技術者との交流を図ることを目的として大学院大学、公益社団法人関西経済連合会および当財団の共催でフォーラムを開催していましたが大学院大学において、別事業でシンポジウムの開催等があったこともあり、令和7年度はフォーラムを開催しませんでした。

(2) N A I S T 発 新産業創出への支援

大学院大学で生まれた研究成果や技術シーズの実用化・製品化を目指して、関西地区の中小企業やベンチャー企業と連携して取り組む4件の研究開発について、研究開発費用の一部として1,200千円を支援しました。

研究を通して基礎的知見の整理や試作が行われ、今後、さらなる知見の蓄積、試作品の評価等が進むことで実用化等が期待されます。

大学研究者	連携企業	研究開発テーマ
情報科学領域 教授 飯田 元	(株)EASE創研	生成AIの活用により独自性・創造性を高める ウェブデザインプロセスモデルの構築
バイオサイエンス領域 准教授 渡辺 大輔	(株)飯田	低グルテリン米使用清酒の特徴香の酵母による 生成メカニズム
物質創成科学領域 准教授 原 康祐	(株)奥本研究所	電荷輸送層の最適化による新規ビスマス系 太陽電池の創製
研究・イノベーション推進機構 特任教授 高木 博史	サラヤ(株)	酵母の育種技術を活用した代替タンパク質 の創製

3. 地域交流事業

先端科学技術に対する地域住民の関心を高めるとともに、地域住民との相互理解を深めるため、交流事業を実施するとともに、関西文化学術研究都市の高山地区に立地する8施設(大学院大学、参天製菓(株)奈良研究開発センター、上六印刷(株)、(株)Burley plus、(株)芦田製作所、(株)日阪製作所、ソフトバンク(株)生駒センター、当財団)で組織する「関西文化学術研究都市高山地区立地施設等連絡協議会」(以下「学研・高山連絡協」という。事務局は当財団)が交流事業を実施しました。

(1) 高山サイエンスプラザの公開

高山サイエンスプラザは、当財団が行う地域交流活動などの活動拠点であり、一般公開しています。地域団体による見学の受け入れのほか、サイエンスランドなどを自由に利用していただきました。

① サイエンスランドの運営

サイエンスランドは、科学技術に出会える楽しい空間となるよう設置しました。遊びを通じ、幼児等が科学に芽生える場として、園児等の科学体験の集団利用に活用されています。大学院大学の研究室よりソーラーカーなどの提供を受けたほか、これらの研究室をPRするパネルも併せて掲出しています。

② 高山サイエンスタウンフェスティバル

学研・高山連絡協の主催により、9月27日(土)に開催しました。高山サイエンスプラザにおいては、小学生を対象に、科学の楽しさを体験し、科学に興味を持ってもらえる教室(内容:ブロックを使って四足歩行ロボットを作ろう!)が開催されるなど、来場者に楽しんでいただける1日となりました。

③ 音楽会

若手音楽家による演奏会(プチコンサート)を実施する実行委員会に対し、学研・高山連絡協が協賛を行いました。計画どおり年4回開催されました。

開催日 5月19日、6月16日、10月20日、11月17日

場 所 高山サイエンスプラザ オープンギャラリー

参加者 149人

(2) 科学教室の開催

小学生を対象に科学の楽しさを伝える科学実験教室を開催しました。年間10回の開催を計画していましたが、講師確保の都合により、7回の開催に留まりました。

毎回多くの参加希望があり、抽選で参加者を決定しました。参加者には、リピーターや弟妹とともに参加する人も多く、子どもたちが科学に触れることのできる場として活用されています。

① N A I S Tサイエンス塾

大学院大学の教員や学生の指導の下、小学生を対象とした科学実験教室を開催しました。

開催日・内容

5月10日 「パンを作る生き物「イースト」のひみつに迫ろう」

6月28日 「対戦ゲームでAIプログラミングに挑戦しよう！」

7月12日 「光と海の波の共通点 温めたチーズから見えるもの！」

9月13日 「空気の力！？ ホバークラフトを作ってみよう！！」

12月13日 「ミカンでできる！！科学工作」

場 所 高山サイエンスプラザ 研修室

参加者 小学生117人

② 親子科学教室

科学の基礎知識を学ぶ実験を実施しました。

開催日 令和7年11月8日(土)

場 所 高山サイエンスプラザ 研修室

内 容 「自分で作る、空気抵抗だけで飛ばす『飛ぶ折り紙ヒコーキ』作りに挑戦しよう！」

参加者 小学生24人

③ 夏休み科学実験教室

夏休み期間中に、小学生を対象とした科学実験教室を開催しました。

開催日 令和7年8月23日(土)
 場 所 高山サイエンスプラザ 研修室
 内 容 「しらべてびっくり！身近な植物のひみつをさぐる」
 参加者 小学生21人

4. 情報発信

当財団のウェブサイトにおいて、催事などのお知らせのほか、財団の概要・事業内容・財務に関する情報を適時公開しました。

II 収益事業の実施状況

(1) 貸室、貸駐車場等に関する事業

① 高山サイエンスプラザ3F レンタルオフィス並びに4F 住戸の賃貸事業

レンタルオフィスについては、年度内に1社の入・退居がありましたが、通年で3社に賃貸し、4,801,929円の収入がありました。

住戸については、施設設備の不具合のため、令和7年1月より使用を見合わせています。

② 高山サイエンスタウン駐車場運営事業

駐車場については、1回駐車券(300円)のほか、定期券1ヶ月券(3,000円)・3ヶ月券(8,000円)・6ヶ月券(15,000円)を販売(学生定期券は半額)し、年間で16,140,400円の収入がありました。

③ その他施設賃貸事業

高山サイエンスプラザ屋上の一部を、通信事業者2社に携帯電話無線局設置のため賃貸し、2,988,201円の収入がありました。

III 財団の運営状況

(1) 理事会の開催

回	開催日	議案等
64	令和7年5月9日(金)	(定款の規定に基づく決議の省略) ＜議案＞第42回評議員会の招集
65 (通常)	令和7年6月9日(月)	現地開催(高山サイエンスプラザ)及びWeb参加 ＜議案＞(1)令和6年度事業報告及び収支決算 (2)第43回評議員会の招集 (3)諸規程の改正
66	令和7年6月26日(木)	(定款の規定に基づく決議の省略) ＜議案＞(1)理事長の選定 (2)専務理事の選定

67	令和7年7月16日(水)	(定款の規定に基づく決議の省略) ＜議案＞第44回評議員会の招集
68 (通常)	令和8年3月25日(水)	現地開催(高山サイエンスプラザ)及びWeb参加 ＜議案＞(1)令和8年度事業計画及び収支予算並びに資金調達 及び設備投資の見込み並びに公益目的事業の種類 及び内容、収益事業等の内容 (2)特定資産の一部取崩し (3)第45回評議員会の招集 (4)第18期支援事業選考委員の選出

(2) 評議員会の開催

回	開催日	議案等
42	令和7年5月15日(木)	(定款の規定に基づく決議の省略) ＜議案＞(1)評議員の選任 (2)理事の選任
43 (定時)	令和7年6月26日(木)	現地開催(高山サイエンスプラザ)及びWeb参加 ＜議案＞(1)令和6年度収支決算 (2)特定資産の一部取崩し (3)理事及び監事の選任
44	令和7年7月30日(水)	(定款の規定に基づく決議の省略) ＜議案＞理事の選任

(3) 運営体制の充実をはかるための取組

① 事業運営の公正性の向上

助成事業の運営の透明性・公正性を一層高めるため、次の内容について支援事業選考委員会規則を改正しました。

- ・大学院大学支援事業において助成対象者を選考する選考委員の選任手続きを見直し、理事会の決議を経る運用へと厳格化しました。
- ・選考の公平性を確保するため、申請者と利害関係を有する委員については、当該案件の審査に関与できない旨を徹底しました。

② 情報公開の推進と透明性の向上

財団運営の透明性を高め、社会への説明責任を果たすため、当財団のウェブサイトを全面的に刷新しました

- ・定款、役員名簿、事業報告書、計算書類等に加え、役員報酬規程についてもウェブサイト上で常時公開しました。誰でも自由にかつ容易にこれらの文書を閲覧できるよう、積極的な情報開示に努めました。

以 上

附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項については、該当なし。

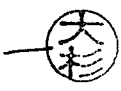
監 査 報 告 書

令和8年4月22日

公益財団法人奈良先端科学技術大学院大学支援財団

理事長 小林 哲也 殿

監 事 犬伏尚輝 

監 事 大杉晃一 

私共、監事は、公益財団法人奈良先端科学技術大学院大学支援財団定款第29条第1項の規定に基づき、令和7年度(令和7年4月1日～令和8年3月31日)の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

私共、監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に務めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。

以上の方法によって、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当財団の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等は、当財団の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以 上